研　究　主　題

自分の考えをもち、生き生きと学び合う子どもをめざして
－ICT･校内LANを効果的に活用した授業づくりの充実－

１．主題設定の理由
（１）平成１８年度、１９年度の校内研究では、かかわり合いを通して学び方を身につけさせ、基礎・基本の習得を目指してきた。１９年度から、校内LAN並びに、ＩＣＴ活用のあり方について研究委嘱を受けたことにより、これまでの研究成果を踏まえ、２０年度からは思考力を高めるために次の力を育成することとした。

①必要な情報および情報手段を主体的に選択し活用する情報活用能力 ②かかわり合いの中から、よりよい考えを生み出すための練り上げる力

本校では、新学習指導要領を視野にいれ、豊かなかかわり合いの中で、多様な考えを認め共感的に理解しつつ、より価値のある考えや手段を適切に自己選択・自己決定していくことができる思考力の育成を目指していく。その上で情報化社会に生きる子どもたちにとって必要な力である情報活用能力を基盤とした研究を進めていきたい。

２．主題について
生き生きと学び合うためには、まず自分の考えを持つことが必要である。自分の考えを持ち、友とかかわり合う中で多様な考えにふれることができる。かかわりの中からよりよい考えを生み出したり、選択したりしていくことで児童のさらなる変容が生まれると捉える。

３．研究のねらい
「ＩＣＴ・校内ＬＡＮを効果的に活用する」という視点で授業改善を工夫し、学校教育全体で確かな学力をはぐくむ授業づくりを実践し、「生き生きと学び合う子ども」を育成する。

４．研究の内容

（１）ICT活用による魅力ある授業の構成と基礎的な学力の定着
・ICTを授業構成のどこに生かすことで魅力ある授業が生み出せるのかを考えながら、授業改善を図り、確かな学力の定着を図る。
・ICTを利用して、個が生きる指導や支援を図り、基礎的な学力の向上を目指す。

（２）問題解決能力を育成するための授業の工夫。
・子どもが問題解決の思考過程を歩むことができるような学習過程を計画し、追求探求しながら学習できるように工夫することで、生きて働く知識を獲得し、思考力を形成していくことを目指す。
・教師と子ども、子どもと子どもの間でのコミュニケーションによる集団的探究を意図的に計画し、実践する。

（３）豊かなかかわりを生み出す学習過程の工夫
・多様な発信とかかわり合いをICTを効果的に活用して実践する。
・自分の考えを表現したり話し合ったり、練り合ったりする学習過程を意図的に計画し実践する。

【今年度の重点・研究の視点】

①教科のねらいに迫るためのＩＣＴを用いた授業の工夫

・ＩＣＴを活用した授業構成や学習形態の工夫をしていく。

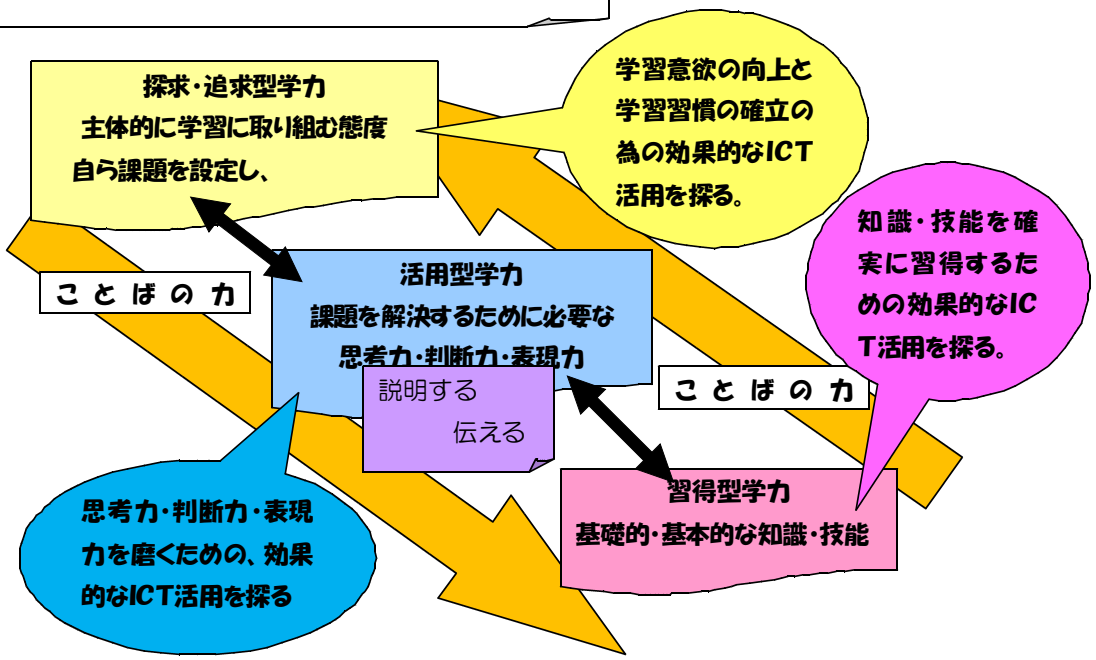
②豊かにかかわり合い、学び、高め合う授業の工夫

・人とのかかわり合いを大切にした学習展開の中にも、より価値のある考え方を見極める収束的思考ができるような「練り上げる場」を学習に応じて設定していく。

③問題解決能力を育成するための授業の工夫

・子どもが問題解決の思考過程を歩むことができるような学習過程を計画し、追求・探求しながら学習できるように工夫する。
・教師と子ども、子どもと子どもの間でのコミュニケーションを伴った集団的探究を意図的に計画し、実践する。

1. ICTを活用した授業構成と付けたい力との関係



5．研究の組織

研　究　全　体　会
・校内研究の共通理解
・各学年の研究過程の交流
・校内研究の推進

研究推進委員会
校長、教頭、教務、
研究主任、副研究主任、学年部1名
・校内研究の計画立案、検討

情報教育
情報教育主任
・校内研究に関わるWEB上の有効教材の検索
・資料づくりと情報機器、ソフト等の講習会の実施

各　学　年
1年　2年　3年　4年　5年　6年
そよかぜ　さわやか

6．研究構想（全体構造図）

学校教育目標

（1）確かな学力をもつ子ども
- ○学び方を身につける。（学習の習慣化・方法の習得）
- ○基礎基本の習得（子どもが発見する基礎基本）
- ○学んだことを活用して、自分なりの考えや解決方法を持つ
- ○情報活用能力（コンピューターを駆使する力）

（2）生き方を見つめる子ども
- ○将来への夢を描く。（キャリア教育）
- ○礼節を尊ぶ
- ○交流体験で自分作り
- ○ものづくり体験の重視

自分の考えをもち、生き生きと学び合う子どもをめざして

－ICT・校内LANを効果的に活用した授業づくりの充実－

【研究における観点】
- ☆教科のねらいに迫るためのICT活用
- ☆ICT活用による魅力ある授業
- ☆情報活用能力の育成

教科のねらいに迫るためのＩＣＴの活用
- ・情報を収集し、自分の考えをまとめる活動の推進
- ・情報を整理し、分析・統合する
- ・資料を子ども自身が見つけ出す活動
- ・表現力や創造力、鑑賞力を高める
- ・体験的な学習を意味づけたり価値づけたりする

総合的な学習の時間を活性化するＩＣＴの活用
- ・対象に対して積極的に働きかけ、自ら調べ、考え課題解決に向かう児童の育成のために、学習意欲の向上と学習習慣の確立の為の効果的なＩＣＴ活用を探る。

【研究の視点】
具体的な学習や活動の場を通して
- ◇ＩＣＴを用いた授業構成と学習形態の工夫
- ◇教育用コンテンツの有効な活用
- ◇多様な発信と交流
- ◇問題解決能力の育成

特別支援学級におけるＩＣＴの活用
- ・ＩＣＴの視覚的効果を利用することで、障がいを持つ児童の集中力や、学習意欲の向上と持続を促す。
- ・体験的な活動を通して得た様々な気づきを教材化し、道徳的な価値の意味や大切さについて考えるとともに、社会のマナーやルール、ソーシャルスキルを身につける。

特別活動・生活指導におけるＩＣＴの活用
- ・児童の日常的な生活課題を教材化し、実践を通して解決を図る。
- ・学校や社会生活における情報モラルを含んだ規範意識の確立を目指す。
- ・特別活動におけるアンケートや意見の集約への利用
- ・「つたわるねっと」等に代表されるグループウエアの活用

情報活用能力
必要な情報および情報手段を主体的に選択し活用するとともに、新たな情報を創造し発信する。
集める・まとめる・伝える・振り返る（生かす）

自己選択、自己決定できる力の育成
- ・かかわり合いの中で交流し、他者認識や共感的理解をしながらも、さらに価値のある考えを見極めていく「練りあげる場」の設定（思考力・判断力）